第４回委員会の議事録（確定版）は現在作成中であること。

資料１

第4回総合企画専門委員会の概要について（速報版）

■第４回総合企画専門委員会の開催状況

１　出席委員（７名中６名出席）

委　員　名	職　　名	備　考
緒方 武比古	北里大学海洋生命科学部長	（欠席）
齋藤　徳美	放送大学岩手学習センター所長	委員長
谷藤　邦基	(財)岩手経済研究所地域経済調査部主席研究員	
豊島　正幸	岩手県立大学地域連携本部本部長、総合政策学部教授	副委員長
平山　健一	独立行政法人科学技術振興機構 JST イノベーションサテライト岩手館長	
広田　純一	岩手大学農学部教授	
南　　正昭	岩手大学工学部教授	

２　開催日時　平成 23 年 6 月 1 日（水）13:30～16:30

３　開催場所　エスポワールいわて 大ホール

４　議題

・復興基本計画（案）について

■主な意見集約の結果

１　計画期間

・復興基本計画　８年間（平成 23 年度～30 年度まで）

・復興実施計画　３年間＋３年間＋２年間

２　復興の目指す姿

「いのちを守り　海と大地と共に生きる　ふるさと岩手・三陸の創造」

３　復興基本計画の構成

「復興の目指す姿」の次に「まちづくりのグランドデザイン」を置く章構成に変更

■主な意見等の概要

（１）復興基本計画（案）について

≪「なりわい」について≫

○ 復興委員会では、「なりわい」という言葉の使い方について、**地域の大切な水産業が地元で自立して営んでいくというイメージ**がありいいのではないかという意見もあった。

○ 地域で漁業が占めている地位に代わる産業がすぐにできるものではなく、**「経済」のニュアンスが強い「産業」でなく「なりわい」とし、「なりわい」を元に戻すというメッセージ**を発して、具体的に住民に説明していくことがいい。

≪まちづくりのグランドデザインについて≫

○ 復興委員会で「減災」の考え方を盛り込むべきとの意見があったが、**津波対策の基本的考え方には、「減災」という表現はないものの、その考え方が盛り込まれている。**

○ 防災施設の整備目標として、まちづくりの絵を示し、県としての進め方を示しているが、**絵を示すことで住民に希望を与えると同時に責任が伴う**ことから、誤ったイメージを持たれることのないよう**住民への伝え方には留意すべき**。

≪構成について≫

○ **復興の理念の次にまちづくりのグランドデザインがあるべき**。

○ **まちづくりのグランドデザインを前面に出し、津波防災を明確にする**こともあり、伝え方の問題だ。県でやれることを明確にして、県民、国民全てが背負うことを期待し、国に要望するということを明確にすべき。

≪目指す姿について≫

○ **革命的な創造的復興でないという意味**で、**「創造」**という言葉を入れるのはいい。

○**「ふるさと」という言葉**を加えてはどうか。また、**内陸と沿岸、人をつなげる意味でも「いわて」を残した方がいい**。

≪計画の見直しについて≫

○ 計画期間は、産業集積の目安となり、被災者の今後の生活の参考となる。

○ 地域の状況により復興がこの計画期間では完了することは困難であり、**終わらないものは県の次期総合計画できちんと実行していく**としてはどうか。

≪その他≫

○ **被災地の震災前までの沿岸が内陸を支えていた歴史、姿を広く共有**するために、沿岸の生活・歴史文化が浮かび上がるように書いてほしい。

○「復興に向けた連携等」の中に**都道府県間連携**を入れてはどうか。

○ **10 本の取組の柱を全体にまとめた工程表**を入れてはどうか。

○ **県内の大学等高等教育機関として復興に貢献したいとの意向**があり、ヒアリングを行って、「三陸創造プロジェクト」の項目に盛り込んでほしい。